国語力向上のための
和歌山県教育委員会における取組について

指導主事　安 岡　勝 彦
指導主事　古 川　眞 澄

【要旨】和歌山県教育委員会では、学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容の確実な習得を図るとともに、学習指導に関する課題を明らかにし，各学校の指導方法等の工夫改善に資するために，平成15年度からすべての公立小・中学校を対象に学力診断テストを実施し，今年度で５年目になる。

結果については，各教科とも概ね良好である状況と判断できるものの，国語科のみならず，その他の教科においても読み取る力や思考力，表現力に課題があることが明らかになってきた。

このような課題を踏まえ，県教育委員会では，県立学校課，小中学校課，教育センター学びの丘の連携のもと，国語力向上に向けた取組を平成18・19年度と継続して推進しているところである。

ここでは，２か年にわたる各事業の趣旨，研修・研究内容，研修・研究の成果と課題等を紹介し，本事業における研修部門を担当した教育センター学びの丘指導主事からみた考察を加えていきたい。また，教育委員会としての今後の取組の方向性についても言及したいと考えている。

【キーワード】　国語力，PISA 型読解力，実践指導資料集，指導改善，
論理的思考力，クリティカル・リーディング，県学力診断テスト

１　はじめに

本県では，平成15年から県内の公立小学校第４～６学年と中学校第１～３学年を対象に，国語，社会，算数（数学），理科，英語（中学校のみ）の学力診断テストを実施している。実施した各年度ごとにその結果分析及び課題を明らかにし，報告を重ねてきたが，その中で各教科それぞれの内容領域等に係る課題に加えて，各教科に共通する課題も明らかになってきた。本稿の趣旨に関わると考えられる課題及び出題形式等を以下に示す。

小学校

- 自分の考えを，段落相互の関係を考え，構成，字数等，さまざまな条件に即して書くこと（国語）
- 複数の情報を含んだ資料や文章から必要な情報を読み取り，読み取ったことをもとに思考・判断すること（社会）
- 図や式を利用して，筋道を立てて文字に表現する問題は無答が多いこと（算数）
- 設問の趣旨を理解し，自らの考えを図に表したり，文章で記述するなど，整理してまとめる力（理科）

中学校

・構成を工夫し，根拠をあげて自分の考えを論述する問題は無答が多いこと(国語)
・図や資料等から時代の特色などを考察し判断する力（社会）
・理由を答える問題や説明を記述する力（数学）
・科学的に考えを要約して表現する力（理科）
・記述や論述する力と，正答を導き出す過程において図や問題文の読解する力（理科）
・「表現の能力（書くこと)」、特にまとまりのある英文を書くことについて無答が多いこと（英語）

等，「自らの考えを」「論理的に」「記述（論述）する」ことに課題がみられる。

OECD が実施した「生徒の学習到達度調査」いわゆる PISA 調査における「読解力」（リーディング・リテラシー）及び国立教育政策研究所が実施した小・中学校教育課程実施状況調査（国語）における「記述式問題」の正答率についても同様の課題が指摘されている。

本県では，県立学校課，小中学校課，教育センター学びの丘が連携を図りながら，平成18年度に「国語力向上推進教員養成事業」，平成19年度は「PISA 型読解力向上のための実践指導資料作成にかかる研究」を実施し，児童生徒の論理的思考力や PISA 型読解力を育成するための指導改善の研究を進めている。本稿においては，２年間の取組を中心に，児童生徒の読解力を高めるための授業改善について言及したい。

２　平成18年度国語力向上推進教員養成事業

（１）事業の概要

ア　趣旨

児童生徒の発達段階に応じた国語力を身に付けさせるため，公立小・中学校及び高等学校に国語力向上推進教員を指名し，推進教員の所属する学校を国語力向上モデル校として指定する。推進教員は研修及び研究推進会議をとおして，指導内容や指導方法に係る実践的研究を協同で進め，研究発表会及びきのくにｅラーニングシステムを活用して、県内の教員へ成果の普及を図る。

イ　業務内容

①国語力向上研修

児童生徒に論理的思考力，情緒力及び表現力等の育成をするうえで効果的な指導方法を県内の教員に普及するため，推進教員や指導主事の指導力をさらに向上させる研修を実施する。

②研究推進会議

研究実践の実施計画や地域での研修・指導計画を作成し，研修・指導状況の報告及び研究実践の情報交換を行う。（年間８回実施）

（２）国語力向上研修

国語力向上研修は，学びの丘が実施する国語力向上研修講座と研究発表会を含め，６回実施した。研修内容については，要旨のみを記す。

ア　第１回　平成18年６月23日（金）

「PISA 型読解力と国語科授業改善」　青山学院大学　小森茂教授

PISA 調査の結果を待つまでもなく，日本の児童生徒が自分の立場を明確にして書くことについては課題があった。PISA 型読解力については，与えられたテキストを鵜呑みにするのではなく，建設的かつ批判的に読解することが重要であり，そのため，常に原典に戻って確認することも必要なことである。

国語の授業においては，常に既習事項との関連性を意識した学習計画をもとに，テキストを引用し，根拠を明らかにして書かせる指導や児童生徒が今日何を学んだのかを書かせることも必要である。教員は，根拠をもとに記述していることを評価規準とし，さらにその評価を児童生徒や保護者と共有することも必要である。

教員自身も何気なく使っている日本語をそれぞれに見直し，意味や用法をしっかり自覚して使うようにすることが求められる。

講義の後、建設的かつ批判的な読解及び評価に係る演習を実施した。

イ　第２回　平成18年７月13日（木）

「読書へのアニマシオン」

「読解力と論理的表現力を育てる指導法」

国立教育政策研究所　　有元秀文総括研究官

有元総括研究官の講義

PISA2003調査結果の最大の問題点は記述式問題であり，特に日本の生徒の４分の１は無回答で提出することにある。「情報の取り出し」については，大きな課題はないが，「解釈」（文章にあることを根拠にして推論すること）及び「熟考・評価」（自らに結びつけて考えを書くこと）に課題がある。

PISA 問題に対応するためには，テキスト全体に関わるおおづかみでオープンエンドになる発問を行い，児童生徒による話し合い活動を取り入れ，自分の考えを書いたり，発表したりする機会を充実する必要がある。評価に当たっては教員が評価の規準を作る必要があり，そのため教員自身が教材理解をより深めておくことが大切である。

本研修後，以下の「授業改善にむけた６つの提案」をもとに，第３，４回研修において，推進教員を６つのグループに分け，模擬授業を実施することとした。授業展開については，「情報の取り出し」「解釈」「熟考・評価」の発問を作り，ワークシートの活用及びグループの話し合い活動を組み入れた授業を計画した。

「読んだことを基に自分の意見をいう」授業へ転換するための具体的な対策

① 教科書教材の精読	→	① 多様な文字資料の活用
② 教師主導の一斉授業	→	② 子ども主導の協同学習
③ 教師と子どもの一問一答	→	③ 子ども同士の討論
④ 憶測による心情や内容の理解	→	④ 推論による表現意図の解釈

⑤ 教材の無批判な受容　　→　　⑤ 教材の評価と批判
⑥ 体験と感想を基にした表現　　→　　⑥ 読解を根拠にした表現
（国立教育政策研究所　有元秀文総括研究官による）

ウ　第３回　平成18年８月１日（火）
「読解力と論理的表現力を育てる指導法」
国立教育政策研究所　有元秀文総括研究官

推進教員が６つのグループになり，校種別に模擬授業（小・中・高）を実施し，授業内容について協議を行った。
有元総括研究官による映像を教材とした模擬授業も実施した。

推進教員による模擬授業

エ　第４回　平成18年８月24日（木）
「読解力と論理的表現力を育てる指導法」
国立教育政策研究所　有元秀文総括研究官
推進教員が６つのグループになり，校種別に模擬授業（小・中・高）を実施し，授業内容について協議を行った。
所属校において実施する研究授業の指導内容について協議を行った。

オ　第５回　平成19年１月11日（木）国語力向上研修講座
「読書への“注1”アニマシオン」　国立教育政策研究所　有元秀文総括研究官
国語力向上推進教員（高等学校）が所属校で実施した研究授業について実践発表を行った。その後，有元総括研究官が読書へのアニマシオンについて講義を行い，午後は総括研究官がアニマドール，推進教員が児童生徒役になり，「星の王子様」（サン=テグジュペリ著　内藤 濯訳）を教材に，アニマシオンの演習を行った。

カ　第６回　平成19年２月27日（火）研究発表会
国語力向上推進教員（小学校・中学校）が所属校で実施した研究授業について実践発表を行った。午後は文部科学省初等中等教育局教育課程課　井上一郎教科調査官が「学校教育に求められる国語力の育成」と題して講演を行った。実践発表について，出席者の感想の一部を記す。

・コミュニケーションを大切にされているところがすばらしいと思った。
・読む意欲を高め，自ら進んで読む方法として自校で紹介したい。
・グループ討論は発表する力を高めるために有効だと思った。
・自分の指導が一方的な読みの押しつけになっていたことを反省しました。
・講義中心の授業の改善を考えていたので，すぐにでも取り入れていきたい。
・批判的な読みやグループ活動は，校種を問わず読解力を高められると思った。
・たいへん魅力的な授業だと思った。英語科でも生かしていきたい。

（３）研究推進会議

ア　第１回　平成18年５月18日（木）

学びの丘指導主事が本事業の概要説明，PISA 調査2003の結果を踏まえた PISA 型読解力についての講義，国語力向上に係る先進的な取組について紹介し，校種別研究協議を行った。

イ　第２回　平成18年７月28日（金）

県立学校課指導主事が文部科学省主催指導主事連絡協議会国語部会（高等学校）での説明内容について講義し，模擬授業に係る指導案協議及び“注2”きのくにｅラーニングについて説明を行った。

ウ　第３回　平成18年９月７日（木）【天候事情により中止】

エ　第４回　平成18年10月６日（金）

県立学校課長が「国語力向上」について講義し，「平成18年度児童生徒の国語力向上に向けた教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修」及び「平成18年度西日本地区国語問題研究協議会」に出席した教員が報告を行った。その後，各自が所属校で実施する研究授業についての協議及び参観模擬授業者の検討を行った。

研究授業については，以下のように実施した。

・推進教員は各校で研究授業を行う。その際，ビデオでの記録をする。
・小、中、高等学校各１校で研究授業参観と協議を行う。
・実施校へ各校種の推進教員及び指導主事が参加し，協議する。
・研究授業については，フリーカード法等を用いて協議する。

オ　第５回

小・中・高等学校各１校で，研究授業を実施した。推進教員は校種別に研究授業の参観及び研究協議を行った。

ワークシート記入のための支援（小学校）

グループで話し合ったことを発表（小学校）

ワークシートの活用（高等学校）

グループ協議（高等学校）

カ　第６回　平成18年12月14日（木）

推進教員が実施した研究授業について報告を行い，校種別に協議を行った。また，国語力向上研修講座及び研究発表会の実践発表に係る協議を行った。

キ　第７回　平成19年２月１日（木）

１年間の取組に係る総括協議を行った。また，授業研究普及に係る協議及びきのくにｅラーニングに掲載するコンテンツ作成を行った。

ク　第８回　平成19年３月８日（木）

授業研究の普及に係る協議及びきのくにｅラーニング掲載コンテンツ作成を行った。

（４）成果と課題

国語力向上推進教員による研究授業の指導内容及び授業指導案等については，教育センター学びの丘ホームページからアクセスが可能となっている「きのくにｅラーニング」に掲載した。研究授業について，推進教員及び児童生徒の感想を以下に記す。（◇…成果，◆…課題）

授業者の感想

◇グループで話し合う時間を設定することにより，以前より意見を積極的に発言できるようになった。そして，発表の際には，必ず具体的な根拠を挙げることも身についてきた。また，意見を聞く時は，なぜそう考えたのかに注意して聞き，友達の考えを積極的に知ろうとする姿も見られるようになった。（小）

◇一斉授業ではなかなか意見を出せない生徒でも，少人数のグループでは安心して発言できていたり，皆で頭を寄せ合ってグループとしての意見をまとめ上げたりする姿が，教室のあちらこちらで見ることができた。（中）

◇根拠を大切にすることは従来の読解のみならず，話す活動に関しても論理的に自分の意見を述べるという点で生徒に意識付けすることが出来たように思う。（中）

◇今回の教材は生徒たちにとっては一見易しいものであるが，話し合いの中で深まりのある読みができた。（高）

◆個人で考えて書く，グループで話し合う，全体で交流し合うという形態により，児童が主体的に学習できた。しかし，話し合い活動に十分な時間を確保できないことがあった。（小）

◆生徒の考えを深めたり広げたりするためには，よりよい話し合いの方法や書く技術を身につけさせる必要がある。また，話し合いができるような学級作りも大切であると感じた。（中）

◆生徒の意見の「集約（まとめ）」の部分で，生徒から「最終的な答えは示してもらえないのか」といった声が聞かれた。（高）

児童生徒の感想

◇自分の考えを発表するのが楽しくなり自信がついた。（小）

◇普段はあまり人の意見について詳しく聞いたり，そのテーマについて話し合ったりする機会があまりなかったが，グループディスカッションをすると話し合うことができるので，自分と違う考えを聞けるのでとてもいいと思う。（中）

◇グループでの学習は，自分の意見をきちんと伝えることができる。（高）

◇先生からの一方的な授業でないので，自分の考えを発展させていくことができ，とても良かったと思う。（高）
◆意見を言い出せる人がいなければ，話し合いがほとんど進まないように思う。発言力のある人や意見をまとめる力のある人がいれば，効果は大きいと思う。（中）
◆討論形式の授業は，いろいろな意見が出て楽しいけれど，授業進度が遅くなるのが気になる。（高）

（５）考察

推進教員は，年間15回にわたる研修及び研究推進会議を通して，国語教育に係る様々な課題を確認した。また，読解力を高める指導について，アニマシオンの手法，授業改善の視点を学んだ上，授業内容の検討及び研究授業の計画を行った。研究授業においては，多様なテキストを教材とし，「情報の取り出し」，「解釈」，「熟考・評価」に係る発問を提示し，児童生徒が主体的に取り組めるような授業案を作成した。問題解決型の授業を展開し，教材に書かれていることを根拠にして自らの考えをワークシートに書き，グループの話し合いを行うことで，自らの考えを書かせること及び教材や他の意見をクリティカル（建設的な批判）に読み取る視点を持たせることなどについても研究授業の中で取り組むことができたと考える。

上記の感想から，児童生徒が根拠を明確にして自らの考えを発表できたこと及び他者の意見を聞くことで自らの考えをより広げられたことがうかがえる。課題として，自分とは異なる考えにも耳を傾ける姿勢と，自分の意見が認められるという自己効力感を育成するため，平素から話し合いのルールについてどのように指導するか，限られた中で話し合いの時間をどのように確保するか等があげられる。

本事業の取組を進める中で，最も重要と考えられることは，児童生徒が教材の読みを深められる発問，教材を根拠にして推論し，論議を深められる発問を授業者がいかに提供することができるかである。授業者が児童生徒の多様な意見を受け止め，根拠が明確でない意見については「なぜ？」と問い返しながら，児童生徒の読みを深めさせるために，授業者が教材をより深く理解していることが大切であると考えられる。

３　平成19年度 PISA 型読解力向上のための実践指導資料集作成に係る研究

（１）研究の概要

ア　目的

PISA 調査における読解力を児童生徒に身に付けさせるため，指導主事及び公立小・中・高等学校の教員から研究委員を任命し，発達段階に応じて計画的に指導するための理論・方法等について研究する。

イ　研究委員会の設置

①発達段階に応じた系統立った指導内容・方法等の研究を進めるために，研究委員会を設置し，監修者及び研究委員を委嘱・任命する。

②監修者としては，国立教育政策研究所　有元秀文総括研究官を委嘱・任命し，実践指導資料集における「PISA 調査における読解力の基本的な考え方」についての原稿の執筆及び資料集全体の内容についての指導，助言を依頼する。

③研究委員は30人（指導主事11人，教員19人）とし，実践指導資料集の「具体的な学習活動例」についての原稿を執筆することとする。

ウ　研究委員会の日程及び内容

①第１回　平成19年６月19日(火)

有元秀文総括研究官が，PISA 型読解力向上のための指導改善・充実のポイントについて，講義を行う。

有元総括研究官による講義

②第２回　平成19年７月６日（金）

各研究委員が作成した指導内容について検討する。

③第３回　平成19年９月13日（木）

第２回研究員会の検討を踏まえ，各研究委員が修正を加えて持ち寄った指導内容について，小・中・高等学校，校種別部会で協議する。その後，有元秀文総括研究官の指導・助言の下，全体会でさらに検討を加える。

④第４回　平成19年12月12日（水）

所属校において実施した研究授業の成果と課題を踏まえ，各研究委員が執筆した「具体的な学習活動例」を持ち寄り検討する。

⑤第５回　平成20年３月４日（火）

各研究委員が執筆した「具体的な学習活動例」について，有元秀文総括研究官が講評する。

その後，クリティカル・シンキングについて再考する機会とするため，ディベート演習を行う。

ディベート演習の様子

（２）実践指導資料集

PISA 調査における読解力を児童生徒に身に付けさせるための理論・方法等について研修・研究し，県内の教員に普及することを目的として実践指導資料集にまとめ，配付することとする。内容は，以下①～③とする。

① PISA 調査における読解力の基本的な考え方

・定義と指導に当たっての基本的な考え方
・評価の在り方
②具体的な学習活動例
・国語科，算数・数学科，理科及び社会科における実践例
・指導・評価の観点
③参考資料

（３）研究委員による研究授業

指導内容・指導方法の充実に資するため，研究委員会において研究したことをもとに，すべての研究委員が所属校において研究授業を実施した。指導主事は，可能な範囲で研究授業を参観し，授業者と（校内研修の場としている学校も複数あり，そのような場合は所属校の教員も併せて）研究協議を行った。

表１に，「研究授業一覧」として，研究授業の実施学年及び教科，単元（教材）名を記す。

表１　研究授業一覧

校 種	教 科	学年	単元（教材）名
小学校	国語科	2	「がちょうのたんじょうび」新美南吉 作
		3	「手ぶくろを買いに」新美南吉 作
		5	「わらぐつの中の神様」杉みき子 作
	社会科	4	「火事を防ぐ」－安全なくらしを守る－
	算数科	4	「面積・総合図形の求積方法」
	理　科	6	「生物とかんきょう」
中学校	国語科	1	「少年の日の思い出」ヘルマン・ヘッセ 作
		2	「ヴェロニカ」遠藤周作 作
		3	「アラスカとの出会い」星野道夫 作
	社会科	2	「地球温暖化」
	数学科	2	「野菜に含まれるビタミン」
	理　科	3	「人間と環境」
		1	「花のような人」山本文緒 作
		2	「アインシュタインの手紙」

高等学校	国語科		
		2	「補陀落渡海記」井上靖 作
		1	「りんごのほっぺ」渡辺美佐子 作
	社会科	1	「『木の国』和歌山から森林について考える」
	数学科	2	「資料の整理・相関関係」
	理　科	1～3	「東南海・南海地震に備えよう」

小学校３学年・国語科

小学校４学年・社会科

（４）研究授業実施後の意識調査の実施

研究授業後に，児童生徒及び授業者に対して意識調査を実施した。調査結果の概要について以下に述べる。

ア　対象

児童生徒　547人，授業者(研究委員)　19人

それぞれの校種別の内訳は，**表２**及び**表３**のとおりである。

表２　児童生徒の校種別内訳

校 種	小学校	中学校	高等学校	合 計
人数	69	289	189	547

表３　授業者の校種別内訳

校 種	小学校	中学校	高等学校	合 計
人数	6	6	7	19

イ　内容

児童生徒に対しては，授業にどう取り組んだかを無記名で，また，授業者に対しては，児童生徒の反応及び研修・研究をどのように活かすかについてを記名で質問した。調査紙については，**図１**，**図２**に示す。

ＰＩＳＡ型読解力向上のための授業について【アンケート】

（　　）学校・（　　）学年

今回の授業であなたが思ったことや感じたことについて、あとのそれぞれの問いに答えてください。①～④はあてはまる番号を○でかこみ、⑤はあなたの思ったことや考えたことを書いてください。

①授業に楽しく取り組めましたか。

1 とてもよくできた　2 できた　3 あまりできなかった　4 できなかった

②あなたの考えを、ワークシートに根拠をあげて書くことができましたか。

1 とてもよくできた　2 できた　3 あまりできなかった　4 できなかった

③グループの話し合いに積極的に参加できましたか。

1 とてもよくできた　2 できた　3 あまりできなかった　4 できなかった

④他の人の意見は参考になりましたか。

1 とても参考になった　2 参考になった　3 あまり参考にならなかった　4 参考にならなかった

⑤今回のような授業について、あなたはどのように思いましたか。思ったこと・感じたことや考えたことを自由に書いてください。

自由記述

図１　児童生徒調査紙

ＰＩＳＡ型読解力向上のための指導資料集作成に係る研究に関するアンケート

学校名（　　）担当教科（　　）氏名（　　）

今後の研修の方法・内容の改善・充実を図るために、研修成果等のアンケートのご協力をお願いします。Ⅰ～Ⅲのアンケート項目の該当するものに○を付けてください。

Ⅰ　今回の研修はどのようなことに役立つと思いますか。（複数回答可）

1 授業等、日常の指導改善　2 より高度な知識・技能の習得

3 自身の読解力の向上　4 その他（　　）

5 役立つとは思わない

Ⅱ　今回の研修はどのような場で活かしましたか。（複数回答可）

1 授業等日常の指導で　2 校内研修や教科会議、学年会議等の場で

3 研究グループやサークルなどにおける情報交換の場で

4 その他（　　）　5 十分に活かすことはできなかった

Ⅲ　所属校で実施した研究授業に関して

①児童生徒は、楽しく授業に取り組めていましたか。

1 とてもよくできた　2 できた　3 あまりできなかった　4 できなかった

②児童生徒は、ワークシートに根拠をあげて自分の考えを書くことができていましたか。

1 とてもよくできた　2 できた　3 あまりできなかった　4 できなかった

③グループの協議は活発になされていましたか。

1 とてもよくできた　2 できた　3 あまりできなかった　4 できなかった

④児童生徒は、他の児童生徒の意見を自分の参考にすることができていましたか。

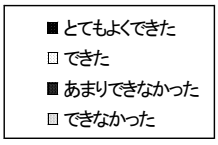
1 とてもよくできた　2 できた　3 あまりできなかった　4 できなかった

⑤研究授業を実施して、感じたことや思ったこと、考えたことを書いてください。

図２　授業者調査紙

ウ　児童生徒に対する調査結果（以下の①～⑤については，調査紙項目に対応する。）

①「授業に楽しく取り組めたか」については，89％が「(とてもよく)できた」と肯定的に回答している。（図３）



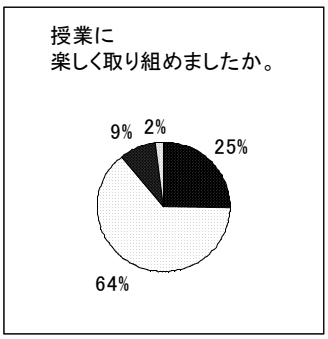


図３授業の取組

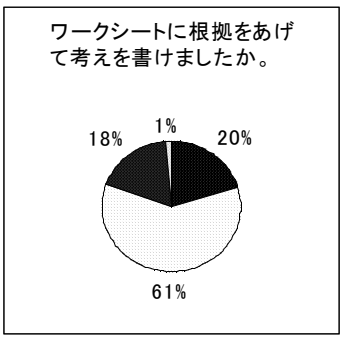


図４ワークシート記述

②「根拠を挙げて考えを書けたか」については，81％が「(とてもよく）できた」と肯定的に回答している。（図４）

③「グループの話し合いに積極的に参加できたか」については，78％が「(とてもよく)できた」と肯定的に回答している。（図５）

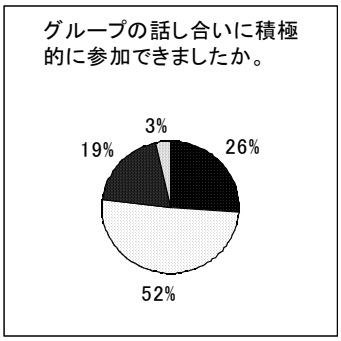


図５　グループの話し合い

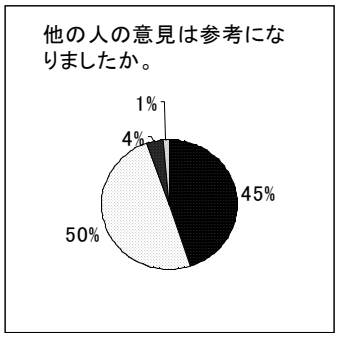


図６　他の人の意見

④「他の人の意見は参考になったか」については，95％が「(とてもよく）できた」

と肯定的に回答している。（**図６**）

⑤ PISA 型読解力向上のための授業について，どのように思ったか。（自由記述）

・自分にとって力になっていると思う。また，意見や理由を言う力，人の意見に賛成か反対を言う力もついてきていると思う。それは，今回の授業で友だちの意見に賛成か反対かを言えるようになったからだ。（小５・国語科）
・多くの人の前で意見は言いにくいが，少人数だと言いやすいから，グループディスカッションはいいと思う。他の人の意見も聞けるし，発言の練習にもなる。自分一人では気づかなかったり，考えをしなかったような考えを知ったりすると，とても楽しくなる。国語が楽しくなった。（中１・国語科）
・社会に出ると，自分一人で何かをするよりも周りの人と一緒にひとつのことをする機会のほうが多いので，このような授業は大切だと感じた。（高２・国語科）
・みんなの前で具体的に話せることがおもしろかった。また，人の意見や説明を聞いているうちに別の案が出てくるのでとても勉強になる。人と自分の意見を比べると，例えば，同じ補助線を引いていても，その考え方が違うのはおもしろくて，勉強が楽しくなった。（小４・算数科）
・普段あまり考えないことを考えたので難しかった。自分の考えをまとめたりするのが苦手なので，色々と考えたりまとめたりすることはよかった。（中２・数学科）
・グループで話し合いをしたり，意見をまとめて発表したりするので，多くの力がついていくと思った。資料から情報を得て，それを根拠にして考えることで，理科の力だけではなく，文章を読む力などの様々な力が必要であると感じた。（中３・理科）
・みんなで話し合い，意見交換をすることで，教科書に書かれている内容も深く考えることができたと思う。物事を正面からだけでなく，側面から見ることも大切だと思った。今回の授業は有効だと思うので，取り入れていってほしい。（高１・社会科）

＊下線は筆者が付した。

エ　授業者に対する調査結果（以下のⅠ・Ⅱ・Ⅲ①～⑤については，調査紙項目に対応する。）

Ⅰ「今回の研修はどのようなことに役立つと思うか」については，「授業等，日常の指導改善」と49％が回答し，「より高度な知識・技能の習得」「自身の読解力の向上」と24％が回答している。

「その他」としては，「子どもたちの活用する力＝生きる力」，「綿密な教材研究」と回答している。（**図７**）

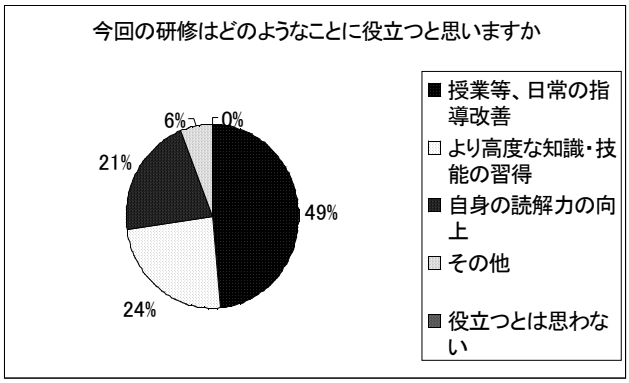


図７　研修は役に立ったか。

Ⅱ「今回の研修はどのような場で活かしたか」については，「授業等，日常の指導改善」と53%が回答し，「校内研修，教科会議，学年会議等」と25%が，「研究グループやサークルなどにおける情報交換の場」と11%が回答している。

一方，７%が「十分に活かすことができなかった」と回答している。（**図８**）

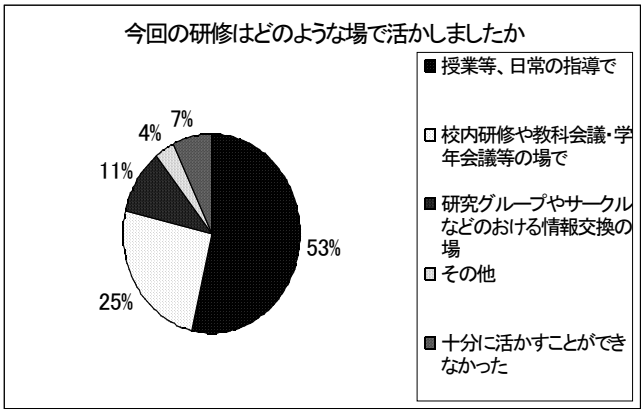


図８　研修をどのような場に活かしたか。

Ⅲ①「児童生徒は授業に楽しく取り組めていたか」は，**図９**に結果を示す。

②「児童生徒は根拠を挙げて考えを書けたか」は，**図10**に結果を示す。

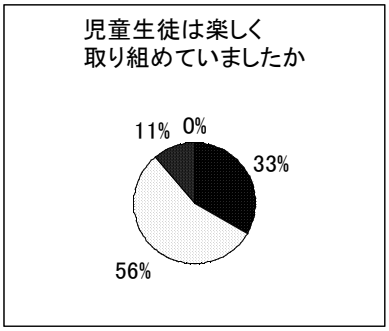


図９　授業の取組

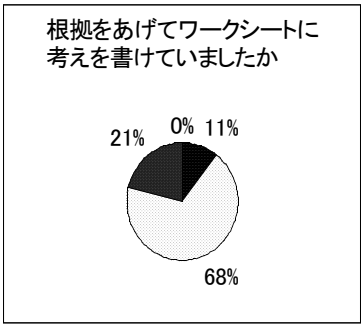


図10　ワークシート記入

③「グループ協議は活発になされていましたか」は，**図11**に結果を示す。

④「児童生徒は他の意見を自分の参考にできていたか」は，**図12**に結果を示す。

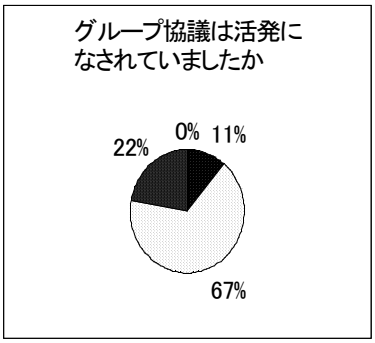


図11　グループ協議

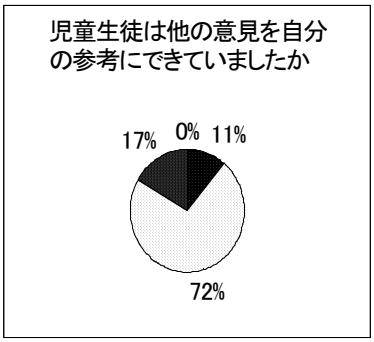


図12　他の意見

Ⅲ①②③の調査結果については，授業者の回答結果と児童生徒の回答結果とが，ほとんど差異のない回答になっている。

Ⅲ④の結果については，授業者の83%が「児童生徒は他の意見を自分の参考に（とてもよく）できていた」と回答しているのに対し，児童生徒については，95%が「他の人の意見は（とても）参考になった」と回答している点が特徴的である。

Ⅲ⑤「PISA 型読解力向上のための授業について，どのように思ったか。」（自由記述）について，授業者の授業展開・内容別に回答を分類し，主だった成果と課題を以下に記す。（◇…成果，◆…課題）

【発問について】

◇筆者の意見に賛成か反対かを問うことで，クリティカルな見方・考え方が求められ，主体的な読みが可能になった。
◇オープンエンドで，生徒自らが自分自身の考えを表現することが可能になる発問の工夫，吟味が大切であると実感した。
◆オープンエンドで興味を引く発問ができなかったため，論点を明確にした討論にならなかった。発問の重要性がわかった。

【ワークシートの活用について】
◇考えを書きまとめ，意見や考えをもって話し合いに臨めたため，活発な話し合い活動となった。自他の意見を照らし合わせながら，人の意見を聞くことで考えを深めることができた。
◇意見をまとめさせてから討論に入ることは，意見を述べることが苦手な子どもには有効であった。

【話し合い活動について】
◇話し合い活動を繰り返すことで，意見を出し合うことへの抵抗感が少なくなった。また，他の意見から自身の意見を深めることができた。
◇協議のテーマについて事前にインターネット等を用いて調べ学習を設定したため，活発かつ現実に即した討論ができた。
◆話し合い活動の充実のためには，日常的に議論の機会を設けることが必要と痛感した。
◆低学年から話し合いに慣れさせるとともに，話し合いのルールを身に付けさせる指導などが必要であると感じた。

＊下線は筆者が付した。

（５）考察

ア　研究委員会について

５回の研究委員会は，有元秀文総括研究官による PISA 型読解力についての講義でスタートした。「なぜ日本の子どもたちは自由記述式問題や熟考・評価問題が不得意なのか」「なぜ PISA 型読解力を育成しなければならないか」等，PISA 型読解力，PISA 型読解力育成の重要性についての知識・理解を深めたうえで，「具体的な学習活動例」の作成を進めることができた。さらに，委員相互の意見交換を図りつつ，有元総括研究官の指導助言のもとで指導内容の検討，修正を重ねたことで，より意義のある充実した研修・研究になり得たと考える。

イ　研究委員による研究授業について

19人すべての研究委員が，９月から12月の期間に研究授業を実施した。研究委員会において指導内容について検討を重ねたうえ，研究授業を行うことができた点は評価できると考える。また，ほとんどの研究授業について，指導主事（研究委員）も授業を参観して研究協議を行ったことで，研究を深めることができた。

ウ　児童生徒の意識調査の結果から

児童生徒質問紙の調査紙項目①～④の結果から，PISA 型読解力向上のための授業に対して，児童生徒は楽しく，意欲的に取り組むことができたことが明らかである。

自由記述回答において，「勉強が楽しくなった」「自分にとって力になった」「考

えを書く（発言する）ことが苦手であったが，慣れてきた（できるようになった）」「このような授業は有効と思う」等の意見が多数みられたことは，大きく評価できる点と考えられる。

エ　授業者の意識調査結果から

授業者質問紙の調査紙項目Ⅲ①～④からも，授業に対しての子どもたちの反応はすこぶるよかったことがわかる。

また，調査紙項目Ⅰ・Ⅱの結果から，約半数の研究委員が，「今回の研修は授業等，日常の指導改善に役立つ」「今回の研修は授業等，日常の指導で活かした」と回答しており，約20％の委員が，「より高度な知識・技能の習得」「自身の読解力の向上」に役立ったと回答している。研修の成果を活かす範囲を広げて「校内研修，教科会議，学年会議等に活かした」と回答した委員は，約４分の１にとどまっている。

これらの結果から，研究成果を研究委員個人にとどめるのでなく，所属校の教員，近隣の学校の教員，さらに県内の教員に対し，どのように普及を図るかが今後の課題と考えられる。

自由記述回答からは，「『熟考・評価』の発問により，生徒のクリティカル・リーディングが可能になった」「発問の工夫・吟味の重要性を学んだ」等の意見，また，「ワークシートの活用により，活発な話し合いがなされた」「ワークシートにあらかじめ考えを書きまとめたうえで，グループ協議，全体協議と段階的に話し合いを行わせたことで，児童生徒の発言することへの抵抗感の軽減が図れた」等の意見が複数出された。

さらに，今後の課題としては，「日常的な議論の機会の充実」「話し合いに慣れさせることの必要性」「話し合いのルールを身に付けさせることの重要性」等が挙げらている。

これらの成果と課題については，本県児童生徒の課題に対応した指導の工夫・改善に対する示唆，指導の工夫・改善のポイントと考えられる。

４　おわりに

平成19年４月24日に「全国学力・学習状況調査」が43年ぶりに実施され，小学校第６学年の児童及び中学校第３学年の生徒を対象に，国語，数学・算数について，知識・技能の定着とこれらを活用する力の両面にわたる調査が行われた。結果の概要が，「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」（平成19年11月７日）で，次のように取り上げられた。

> 現段階においてまとめられた調査結果からは，教育課程実施状況調査や国際的な学力調査と同様に，基礎的・基本的な知識・技能については，相当数の子どもたちが概ね身に付けていると考えられる（中略）。
>
> 他方，知識・技能を活用する問題においては，例えば，国語では，
>
> ・　説明文で述べられている事柄の理由を要約すること，資料から必要な事柄を取り出して与えられた条件に即して書き換えること（小学校），
>
> ・　複数の資料から得た情報を比較して，伝えるべき事柄を明確にして書くこと（中学校），

といった点に課題が見られた。（中略）

○　このように，各種調査の結果からは，基礎的・基本的な知識・技能の習得については，個別には課題のある事項もあるものの，全体としては一定の成果が認められる。しかし，思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題に課題がある。これらの力は現行指導要領が重視し，子どもたちが社会において必要とされる力であることから，大きな課題であると言わざるを得ない。

＊下線は筆者が付した。

このように我が国の児童生徒の学力・学習状況は，「基礎的・基本的な知識・技能については，相当数の子どもたちが概ね身に付けていると考えられる」が，「思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題」における課題が明らかになった。

本県児童生徒の学力・学習状況については，「知識・技能を活用する力」に，全国を凌ぐ顕著な課題が浮き彫りになっている。この結果からも，「読解力」育成のため，一層の学習指導の工夫・改善を進めることが，本県学校教育の重要課題であることを再認識する次第である。

県教育委員会では，２か年の成果と課題を踏まえ，平成20年度は，「ことばの重視」及び「体験活動の充実」を指導改善の方向として，「ことばと体験をつなぐ研究開発事業」を実施する予定である。「国語力向上推進教員」及び「PISA 型読解力向上のための実践指導資料集作成に係る研究委員」並びに「PISA 型読解力向上のための実践指導資料集」を活用し，「国語科における活用型授業の実践研究」をさらに推進することで，本県の児童生徒の課題に対応する学習指導の工夫・改善に役立つものと考えている。

〈注　　釈〉

注1　アニマシオン‥‥モンセラ・サルトが開発・体系化した読書指導メソッド

注2　きのくにｅラーニング‥‥学校における教育の情報化と授業改善等に役立てるため，和歌山県教育センター学びの丘に設置するインターネットを活用した学習システム

〈参考文献〉

・有元秀文『「国際的な読解力」を育てるための「相互交流のコミュニケーション」の授業改革』渓水社(2006)

・中央教育審議会　初等中等教育分科会　教育課程部会『教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ』(2007)